

ETERNUS CS パーチャルテープ 製品比較表

製品名		ETERNUS CS500	ETERNUS CS500DL	ETERNUS CS1000	ETERNUS CS2000	
外観						
<b>仕様・諸元</b>						
対象クラス		エントリー	エントリー	ミッドレンジ	エンタープライズ	
標準価格 (税別・最小構成時)		2,292万6,000円より	2,071万円より	2,462万6,000円より	5,504万2,000円より	
キャビネット数		1	1	1	2~3	
仮想ドライブ	ドライブタイプ	LTO Ultrium2/4 エミュレーション, IBM 3590-E1A エミュレーション	LTO Ultrium2/4 エミュレーション, IBM 3590-E1A エミュレーション	LTO Ultrium2/4 エミュレーション, IBM 3590-E1A エミュレーション	LTO Ultrium2/4 エミュレーション, IBM 3590-E1A エミュレーション	
	ドライブ数 (注1)	32~64	32~64	32~64	64~256	
論理ボリューム	サポート数 (注1)	最大300,000	最大300,000	最大300,000	最大500,000	
テープボリュームキャッシュ容量(非圧縮)		4.9~49.9TB	11.0~212.6TB	4.9~49.9TB	9.8~159.6TB	
ホストインターフェース	ドライブインターフェースタイプ	ファイバチャネル(最大8Gbit/s)	ファイバチャネル(最大8Gbit/s)	ファイバチャネル(最大8Gbit/s)	ファイバチャネル(最大8Gbit/s)	
	ドライブパス数	4~8 (注2)	4~8 (注2)	4~8 (注2)	4~16	
接続可能 テープライブラリ	バックエンドテープライブラリ (注3)	ETERNUS LT60 S2 ETERNUS LT270 S2	—	ETERNUS LT60 S2 ETERNUS LT270 S2	ETERNUS LT270 S2	
	サポート物理ドライブ種 (注4)	LTO Ultrium5 テープドライブ LTO Ultrium4 テープドライブ	—	LTO Ultrium5 テープドライブ LTO Ultrium4 テープドライブ	LTO Ultrium5 テープドライブ LTO Ultrium4 テープドライブ	
	接続可能台数	1	—	2	マルチ	
	物理テープ 収納巻数	ETERNUS LT60 S2	48	—	48 (注5)	—
		ETERNUS LT250	61~91	—	61~91 (注5)	—
ETERNUS LT270 S2		668~693 (注6)	—	693 (注5)	618 ~ 693 (注5), (注6)	
サポートサーバ		基幹IAサーバ、 各社UNIX/PCサーバ	基幹IAサーバ、 各社UNIX/PCサーバ	基幹IAサーバ、 各社UNIX/PCサーバ	基幹IAサーバ、 各社UNIX/PCサーバ	
外形寸法	幅	700 mm	700 mm	700 mm	2,100 mm (注7)	
	奥行き	1,075 mm	1,075 mm	1,075 mm	1,075 mm	
	高さ	1,800 mm	1,800 mm	1,800 mm	2,008 mm	
最大質量		520 kg	520 kg	520 kg	1,970 kg (注7)	
電源条件/電圧		AC200~240V	AC200~240V	AC200~240V	AC200~240V	
最大所要電力		6.9 kW	6.9 kW	6.9 kW	25.6 kW (注7)	
最大発熱量		24,840 kJ/h	24,840 kJ/h	24,840 kJ/h	92,160 kJ/h (注7)	
必要コンセント数		2 (最大4) (注8)	2 (最大4) (注9)	2 (最大4) (注8)	8 (最大12)	
コンセント形状		ロック式2ピンアース付(NEMA L6-30)	ロック式2ピンアース付(NEMA L6-30)	ロック式2ピンアース付(NEMA L6-30)	ロック式2ピンアース付(NEMA L6-30)	
<b>機能</b>						
キャッシュミラー機能		—	—	—	○	
デュアルセーブ機能		○	—	○	○	
マルチライブラリ機能		—	—	○	○	
トリプルセーブ機能		—	—	—	○	
Export/Import機能		○	—	○	○	
暗号化機能		○ (注10)	—	○ (注10)	○	

(注1) バックアップソフトウェアにより使用可能数が異なります。またCS500DLは搭載されるTVC容量にも依存します。

(注2) ホストパスと物理ドライブパスはスロットを共有するので、ホストパス数によってドライブパスの最大数が決まります。

(注3) CS500DL以外はバックエンドのテープライブラリが必須(別途手配が必要)、LT60 S2のみTVC容量によってはラック搭載が可能。

(注4) WORM カートリッジテープは使用不可。

(注5) テープライブラリ1台分の値です。CS1000に接続するテープライブラリは、2台が基本です。

(注6) ユーザー使用可能巻数で、テープドライブの搭載数により異なります。

(注7) ラック3台、テープボリューム・キャッシュ容量が最大構成時の値。

(注8) テープボリューム・キャッシュ容量が19.9TB以上の場合、コンセントは4つ必要です。

(注9) テープボリューム・キャッシュ容量が78.2TB以上の場合、コンセントは4つ必要です。

(注10) バックエンドライブラリがETERNUS LT270 S2の場合。